

(2)林業の生産性向上

① 森林整備

プロジェクト

青い森を未来につなぐ再造林の推進（統合）

目 標

・再造林率	R4:32%	→	R10:55%
・間伐面積	R4:1,873ha	→	R10:2,400ha
・コンテナ苗生産量	R4:96万本	→	R10:120万本
・森林資源情報のデジタル化	R7:54%	→	R10:75%
・森づくり協定締結	R4:26団体	→	R10:36団体
・林内路網延長	R4:1,291km	→	R10:1,315km

挑戦する内容

- ・低コスト再造林の推進
- ・経営の継続が困難な森林を意欲ある企業に集約
- ・市町村林政業務の総合的な支援
- ・デジタル林業技術を活用した効率的な森林経営の推進
- ・コンテナ苗生産体制の強化
- ・企業等による森づくりへの参画の促進
- ・林道・森林作業道などの路網整備の推進

関係者の声
＝対話

- ・立木価格が低迷しており、経営意欲が湧かない（森林所有者）
- ・将来の森林資源確保に向けて森林の取得を進めていきたい（木材利用事業者）
- ・コンテナ苗の生産技術をしっかりと習得したい（苗木生産者）
- ・SDGs等に貢献するため森林づくりに関わりたい（企業等）
- ・市町村の林政業務について、県のサポートが必要（市町村）

役割分担

- ・森林所有者、森林組合、林業事業体、企業等：森林づくりの実施
- ・産技センター：技術の実証・開発、情報提供
- ・県、市町村：森林づくりの支援、普及啓発、各種調整

変革後の姿

- ・再造林や再造林後の森林整備を適切に実施することで、森林資源の循環利用と、CO₂の吸収・固定や水源のかん養など、森林の持つ多面的機能が高度に発揮

令和8年度計画

挑戦する内容

- 低コスト再造林の推進
 - ・林業事業体が行う森林の集約化及び再造林経費を支援
- 経営の継続が困難な森林を意欲ある企業に集約
 - ・経営継続が困難な森林や再造林されていない伐採跡地の位置情報の見える化及び航空レーザ計測による精密な森林情報の取得・提供による企業への集約化モデル実証（2地区）
- 市町村林政業務の総合的な支援
 - ・林政業務サポートセンターを設置し、森林経営管理制度の運用支援や基礎研修会の開催
- デジタル林業技術を活用した効率的な森林経営の推進
 - ・AI技術を活用した森林情報更新システムの開発
 - ・デジタル林業技術の活用に関する研修会の開催
 - ・デジタルデータを活用した効率的な森林整備のモデル実証への支援（2企業）
 - ・低コスト再造林等へのデジタル技術の活用方策の提案・実証への支援（2企業）
- コンテナ苗生産体制の強化
 - ・生産技術向上研修会等の開催（1回）
- 企業等による森づくりへの参画の促進
 - ・森林のフィールド情報提供や森林整備活動での技術指導など
 - ・森づくりへの参画支援
- 林道・森林作業道などの路網整備の推進
 - ・県営林道の開設（5路線）
 - ・市町村及び林業事業体が行う路網整備経費を支援

対話

- ・部会を開催し、外部委員からの意見等を反映し、事業構築に反映（7月、1月）
- ・コンテナ苗生産技術向上研修会等において、関係者と意見交換し、指導内容に反映（9月）
- ・林業種苗需給調整協議会において、関係団体と情報共有し種苗生産計画に反映（12月）
- ・林業事業体を対象としたヒアリングや担当者会議において、再造林推進施策を検討（随時）
- ・デジタル林業技術の活用に関する講習会において、関係者と意見交換し、指導内容に反映（随時）



計画的な再造林及び再造林後の適正な管理の実施